



先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/11/01

年末を見据えた動きに注意

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	次のテーマを定められるか 予想レンジ: 96.000 ~ 100.000 円	2 - 3
カナダ/円	➡	「ドル/円連動」相場へ 予想レンジ: 92.200 ~ 96.500 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



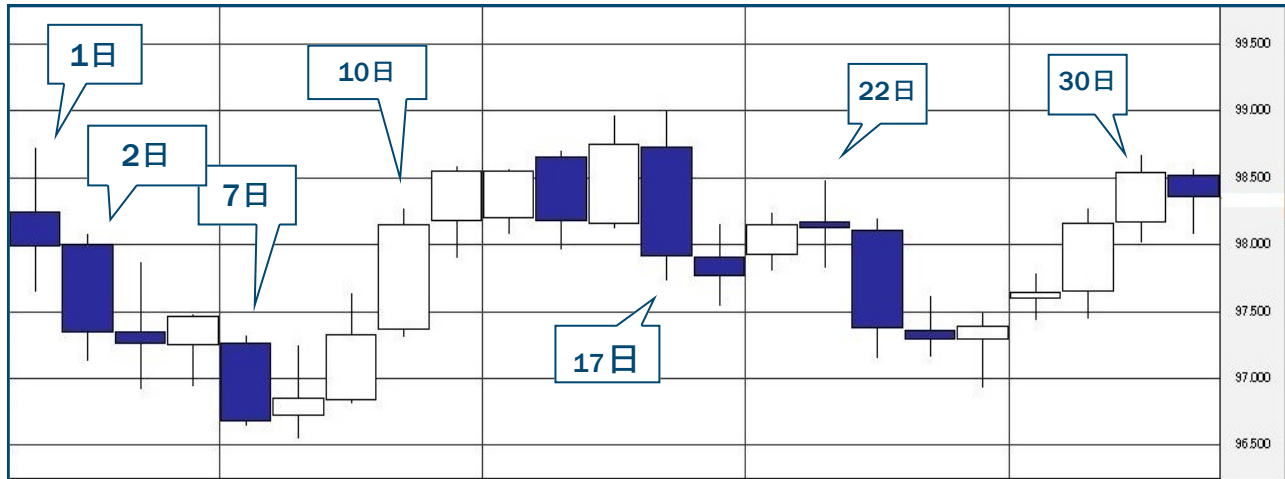
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	98.252円	99.002円	96.557円	98.369円



1日	一部通信社が「(米下院共和党議員の話として)米下院共和党指導部は、最終的にオバマケアの変更等を盛り込まない緊急暫定予算案を提出する見通し」と報じたことを受けてドル/円は98.724円まで上昇。しかし、その後は徐々に軟化。夕方に安倍首相が消費増税及び経済対策に関する記者会見を行い、「来年4月から消費税率を8%へ引き上げる決断をした」「新たな経済対策は5兆円規模で12月上旬に策定」等と発言したものの、目新しい内容が無かったことからドル/円は失速した。
2日	米財政協議を巡る不透明感から日経平均株価が下落するとドル/円も下落。さらに、米9月ADP全国雇用者数が16.6万人の増加と市場予想(+18.0万人)よりも弱い結果になった上、前月分も下方修正(17.6万人増→15.9万人増)された。これを受けてドル/円には再度下押し圧力がかった。
7日	週末のうちに米与野党間協議に進展が見られなかったことを嫌気して朝から下落。欧州・米国株価が軟調に推移する中でジリジリと下値を切り下げる展開となり、翌朝早朝には96.557円の安値をつけた。
10日	米新規失業保険申請件数が37.4万件と市場予想(31.1万件)よりも大幅に弱い結果だったものの、この結果について米労働省が「申請件数の上昇分の半数ほどはカリフォルニア州のシステム切り替えの影響」との見方を示すと反発。さらにその後、「米共和党下院議員らが無条件の債務上限6週間引き上げ法案を検討しており、本日にも提出の見込み」と報じられると、米予算協議の進展期待に繋がり、ドル/円は上値を伸ばした。
17日	アジア市場中に米上下院で暫定予算案が通過すると、材料出尽くし感からドル売りが強まり、ドル/円は下落した。
22日	米政府機関の閉鎖に伴い、発表が延期されていた米9月雇用統計は、失業率が7.2%(市場予想:7.3%)、非農業部門雇用者数が14.8万人増(同:18.0万人増)と、マチマチの結果となった。発表直後のドル/円は非農業部門雇用者数の弱い結果を受けて97.838円まで急落したが、失業率の改善を受けてすぐに切り返すなど、荒い値動きとなった。
30日	21時15分に発表された米10月ADP全国雇用者数が13.0万人増と市場予想(15.0万人増)を下回った上、前月分も下方修正(16.6万人増→14.5万人増)されたものの、米連邦公開市場委員会(FOMC)前に反応は限定的。27時に発表されたFOMC声明は、「経済活動は緩やかなペースで拡大している」「一部の雇用指標は一段の改善を示しているが、失業率は引き続き高い」「財政面での圧迫にもかかわらず景気は改善する見通し」「量的緩和縮小前にさらなる証拠を待ちたい」との内容。市場はこれを「予想ほどハト派寄りでない」と受け止め、発表後にドル高が進行。98.675円まで反発した。

USD / JPY

今月のポイント

10月のドル/円相場は96.557～99.002円のレンジで推移。月間の終値ベースではほぼ横ばいの推移となった。

月初の段階では米与野党間の財政協議が進まないことを嫌気したドル売りが先行したが、次第に「米債務上限の引き上げ期限とされる17日までには決着がつかだろう」との楽観的なムードからドル買い優勢に転換。ただ、実際に17日ギリギリに米上下院で暫定予算案が通過すると、材料出尽くし感からドル/円は一旦失速した。30日の米連邦公開市場委員会(FOMC)声明の内容が市場の予想ほど悲観的な内容にならなかったことを受けてドル/円は再び反発する様子もみせたものの、99円付近では上値が抑えられた。

今月のドル/円は、目下のところ「テーマを定めることが先決」と言えそうだ。米財政協議が来年1月まで先送りされた形となった上、量的緩和(QE)の縮小開始時期についても市場の見方は2014年の3月以降に後退しており、喫緊の話題がない。当面は米連邦準備制度理事会(FRB)のスタンスと同様、「経済データを確認」しつつ、新たなテーマを模索する流れとなるだろう。新たな手掛かり材料を市場が定められない限り、ドル/円には方向感が出にくい状態が続くと見る。ただ、年末を見据えた実需の動きなどによる急な価格変動など、単発で警戒すべき要素はあるため、油断は大敵と言えよう。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 96.000～100.000円)

今月の注目材料

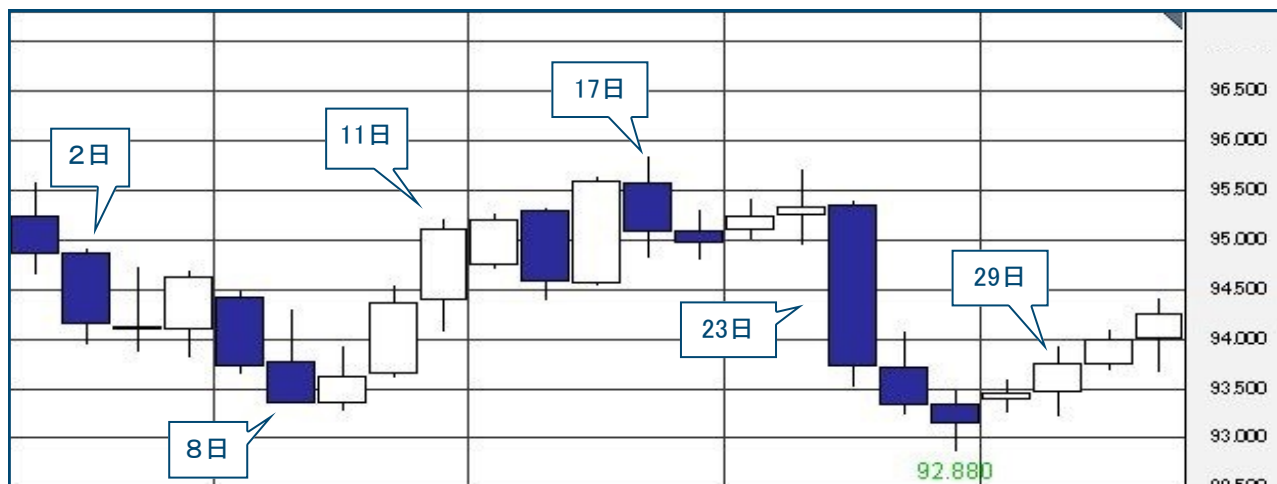
※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(金)	10月米ISM製造業景況指数		10月鉱工業生産
11/5(火)	10月米ISM非製造業景況指数	11/20(水)	10月日本通関ベース貿易収支
11/6(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (10月3日・4日分)		FOMC議事録(10月29日・30日分)
11/7(木)	第3四半期米GDP・速報値	11/21(木)	日銀金融政策決定会合(20日～発表)
11/8(金)	10月米雇用統計		11月米フィラデルフィア連銀景況指数
	11月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	11/26(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (10月31日分)
11/11(月)	9月日本経常収支・貿易収支		第3四半期米GDP・改定値
11/13(水)	9月日本機械受注		10月米住宅着工件数
11/14(木)	第3四半期日本GDP・一次速報		10月米消費者信頼感指数
	10月米小売売上高	11/27(水)	10月米耐久財受注
11/15(金)	10月米消費者物価指数		11月米シカゴ購買部協会景気指数
	10月米NY連銀製造業景気指数		

CAD/JPY

カナダ/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	95.253円	95.839円	92.880円	94.271円



2日	前日までに米議会が予算協議で合意出来ず、政府機関の一部閉鎖が実施された事を嫌気して日経平均株価が300円超下落。さらに欧米市場でも株安の流れが続くと94円を割り込んだ。
8日	加9月住宅着工件数が19.36万件と事前予想(18.50万件)を上回ると94.302円まで上昇したものの、米財政協議に関して、オバマ米大統領が共和党のペイナー下院議長との電話で「新年度予算案と債務上限引き上げ問題を巡り、交渉に応じない」と伝えたことが明らかとなると失望感が広がり93.369円まで下落した。
11日	米財政協議について、共和党が来月22日までの債務上限引き上げと12月15日までの暫定予算を提案すると伝えられると、合意への期待から株高・資源高が進み、95.219円まで上値を伸ばした。なお、カナダ中銀(BOC)のポロズ総裁は「カナダの成長率には落胆しており、想定通りには進んでいない」などと発言したが材料視されなかった。
17日	16日夜から続く米議会の財政協議が合意に至るとの期待から、リスク・オンのムードが広がると95.839円まで上昇した。しかし、上・下院で2013年1月15日までの暫定予算と2月7日までの債務上限引き上げが実際に可決されると急速に材料出尽くし感が広がり、ドル売りが活発化。カナダ/円はドル/円の下落につれて94.839円まで反落した。
23日	中国人民銀行が資金供給オペを見送った事から同国の短期金利が急上昇すると、上海株が急落。つれて日本株も値を下げるリスク回避の流れとなり、94円台へ下落した。さらに、カナダ中銀(BOC)が政策金利(1.00%)の据え置きと同時に発表した声明で、インフレに対する下方リスクを指摘した上で、前回までの声明に盛り込まれていた「政策金利も徐々に正常化される」との文言を削除すると、利上げ期待が後退してカナダドル売りが加速。93.547円まで下値を切り下げた。
29日	ポロズBOC総裁は議会証言で、23日に発表した中銀声明から利上げに関する文言を削除した事について、低いインフレ率と景気の弱さに対応したものであり、緩和的な金融政策のためにインフレ率が中銀目標を上回るリスクは小さいとの見方を示した。ただ、カナダドル相場の反応は限られ、独DAX指数や米S&P500種が史上最高値を更新するなどリスクオンのムードが広がる中で、カナダ/円はむしろ上昇した。月末スポット応答日のロンドンフィキシングに向けてドル高が進み、ドル/円が98円台に上伸した事も支援材料となった。

CAD/JPY

今月のポイント

10月のカナダ/円相場は92.880円～95.839円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.1%の下落(カナダドル安・円高)となった。上旬は、米国の財政問題が混迷し、政府機関の一部が閉鎖された事でカナダドルに下落圧力がかかった。米国経済への依存度が高いカナダ経済にとっても、米財政問題がマイナス要因と看做された結果だろう。その後、米財政協議がひとまずの合意に至った事で一旦反発したものの、下旬には中国の不良債権問題に絡む引き締め懸念に加え、カナダ中銀が利上げスタンスを撤回(中立スタンスに変更)した事が響き、再び下落。カナダ/円は25日に93円を割り込み、8月28日以来の安値となる92.880円を示現した。もっとも、月末にかけてはドル/円の上昇に支えられるなどして94円台に値を戻すなど、方向感の定まらない展開であった。

11月についても明確な方向感は出にくいだろう。カナダ中銀が利上げスタンスを撤回した事で、カナダドルの優位性が薄れた感は否めない。中銀が利上げスタンスの撤回を決めた理由のひとつとして挙げたのは、米国経済の先行き不透明感であった。利上げ観測という強みを失ったカナダドルは米ドルの衛星通貨として連動する公算が大きい。カナダ/円は、米国の量的緩和縮小開始時期の思惑によって上下するドル/円に連れる場面が増えそうだ。(神田)

(予想レンジ:92.200～96.500円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(金)	10月中国製造業PMI	11/14(火)	第3四半期日本GDP・一次速報
	10月米ISM製造業景況指数		9月加新築住宅価格指数
11/5(火)	10月米ISM非製造業景況指数		10月米小売売上高
11/7(木)	10月加Ivey購買部協会指数	11/20(水)	10月日本通関ベース貿易収支
	第3四半期米GDP・速報値	11/21(木)	日銀金融政策決定会合(20日～発表)
11/8(金)	10月中国貿易収支	11/22(金)	10月加消費者物価指数
	10月加住宅着工件数		9月加小売売上高
	10月加雇用統計	11/29(金)	第3四半期加GDP
	10月米雇用統計		9月加GDP
11/9(土)	10月中国鉱工業生産		
11/11(月)	9月日本経常収支・貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。